

令和2年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第9号(12月予報)

○向こう1か月の天候の見通し（令和2年11月26日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
ほぼ平年並	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○12月の発生予報（沖縄群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		11月の発生量 (平年比)	11月からの 増減	12月の発生量 (平年比)	
さとうきび	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)	並	↗	並	芯枯茎率の平年の発生量の推移(↗)
	② メイチュウ類(イネヨトウ)	並	↗	並	芯枯茎率の平年の発生量の推移(↗)
かんきつ(温州みかん)	① かいよう病	やや多	↗	やや多	平年の発生量の推移(↗)
	② そうか病	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移(→)
	③ アブラムシ類	(発生なし)並	→	並	新梢の発生量が減少するため
	④ ミカンハモグリガ	やや少	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	⑤ ハダニ類	やや多	↗	やや多	平年の発生量の推移(↗)
かんきつ(タンカン)	① かいよう病	並	↘	並	平年の発生量の推移(↘)
	② 黒点病	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	③ そうか病	(発生なし)並	→	並	平年の発生量の推移(→)
	④ アブラムシ類	やや少	↘	並	平年の発生量の推移(↘)
	⑤ ミカンハモグリガ	やや少	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	⑥ ハダニ類	やや多	↗	やや多	平年の発生量の推移(↗)
マンゴー	① ハダニ類	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
キャベツ	① コナガ	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移(→)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○12月の発生予報つづき（沖縄群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		11月の発生量 (平年比)	11月からの 増減	12月の発生量 (平年比)	その他、気象要因等あれば記載
レ タ ス	① アブラムシ類	多	→	多	平年の発生量の推移 (→)
ゴ ー ヤ ー (施 設)	① うどんこ病	並	→	並	平年の発生量の推移 (→)
	② ミナミキイロアザミウマ	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	③ タバココナジラミ	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移 (→)
	④ アブラムシ類	(発生なし)並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
ト マ ト	① 黄化葉巻病	多	→	多	平年の発生量の推移 (→)
	② コナジラミ類	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移 (→)
(年 末 小 出 ギ 荷 ク 用)	① 黒斑・褐斑病	多	-	-	
	② アザミウマ類	多	-	-	
	③ アブラムシ類	やや多	-	-	
	④ カスミカメ類	やや多	-	-	

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○12月のその他注意すべき病害虫（沖縄群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さ と う き び	ツマジロクサヨトウ	11月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲されている。培土時に粒剤の株元散布を行う。なお、粒剤は効果が出るまでに数日かかるため、ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
(タ ン カ ン つ)	サビダニ類	病害虫防除員報告（本島北部）によると、本種が多発生であった。早期発見に努め、初期発生では、被害果実を見つけ次第摘果する。薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
	果樹カメムシ類	病害虫防除員報告（本島北部）によると、今後出荷予定のタンカンや天草で被害果がみられた。異常落果の原因にもなるため、早期発見・防除に努める。
マ ン ゴ ー	炭そ病・軸腐病・すす点病	出蕾期から感染が確認されているので、登録農薬によるスケジュール散布を行う。
キ ャ ベ ツ	ハイマダラノメイガ	一部ほ場で発生。幼虫が芯部に食入することによって、著しく成長が阻害され芯止まり状態となる。

令和2年度 宮古群島 病害虫発生予報 第9号(12月予報)

○向こう1か月の天候の見通し（令和2年11月26日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
ほぼ平年並	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○12月の発生予報（宮古群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		11月の発生量 (平年比)	11月からの 増減	12月の発生量 (平年比)	
さとうきび	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)	多	↗	多	芯枯茎率の平年の発生量の推移(↗)
	② メイチュウ類(イネヨトウ)	多	↗	多	芯枯茎率の平年の発生量の推移(↗)
マンゴー	① ハダニ類	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
かぼちゃ(一期目)	① うどんこ病	(発生なし)並	↗	並	平年の発生量の推移(↗) 開花期～幼果期にあたるため
	② 細菌病	多	↗	多	平年の発生量の推移(↗)
	③ アブラムシ類	(発生なし)並	↘	並	平年の発生量の推移(↘)
	④ ハモグリバエ類	(発生なし)並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
ゴーヤー(施設)	① うどんこ病	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	② 斑点病	(発生なし)並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	③ ミナミキイロアザミウマ	(発生なし)並	↗	並	今後1か月の気温が平年より高い見込み
	④ タバココナジラミ	(発生なし)並	↗	並	今後1か月の気温が平年より高い見込み

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※(発生なし)は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量(現況)と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○12月のその他注意すべき病害虫（宮古群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	ツマジロクサヨトウ	11月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲されている。培土時に粒剤の株元散布を行う。なお、粒剤は効果が出るまでに数日かかるため、ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
マンゴー	炭そ病・軸腐病・すす点病	出蕾期から感染が確認されているので、登録農薬によるスケジュール散布を行う。
（かぼちゃ期目）	チョウ目幼虫	見取り調査により発生が確認されている。また、ハスモンヨトウのフェロモントラップにおいても今月は誘殺数が増加傾向にある。防除対策は、幼虫は見つけしだい捕殺する。特に、卵塊や集団化している若齢幼虫の捕殺が有効である。中齢以降の幼虫は薬剤が効きにくいので、若齢幼虫期に防除する。
（施設・立体栽培）	とうがんウイルス病	アザミウマ類媒介のウイルス病が数件発生している。対策法として、発病株は見つけ次第抜き取り処分する。媒介虫となるアザミウマ類やアブラムシ類の防除を徹底する。罹病株で使用したハサミ等からも汁液感染する可能性があるため、農機具の消毒を徹底する。
（ゴーヤー）	ウイルス病	アザミウマ類媒介のウイルス病が数件発生している。対策法として、発病株は見つけ次第抜き取り処分する。媒介虫となるアザミウマ類やアブラムシ類の防除を徹底する。罹病株で使用したハサミ等からも汁液感染する可能性があるため、農機具の消毒を徹底する。

令和2年度 八重山群島 病害虫発生予報 第9号(12月予報)

○向こう1か月の天候の見通し(令和2年11月26日発表:沖縄気象台)

平均気温	降水量	日照時間
ほぼ平年並	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○12月の発生予報 (八重山群島)

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		11月の発生量 (平年比)	11月からの 増減	12月の発生量 (平年比)	
さとうきび	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)	やや多	↗	やや多	芯枯率率の平年の発生量の推移(↗)
	② メイチュウ類(イネヨトウ)	やや多	↗	やや多	芯枯率率の平年の発生量の推移(↗)
マンゴー	① ハダニ類	並	↘	並	平年の発生量の推移(↘)
かぼちゃ	① モザイク病	並	↘	並	平年の発生量の推移(↘)
	② うどんこ病	(発生なし)並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	③ 細菌病	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	④ アブラムシ類	並	↘	並	平年の発生量の推移(↘)
	⑤ ハモグリバエ類	やや少	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	⑥ タバココナジラミ	やや多	↘	やや多	平年の発生量の推移(↘)
ゴーヤー(施設)	① うどんこ病	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	② 斑点病	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移(→)
	③ ミナミキイロアザミウマ	(発生なし)並	→	並	平年の発生量の推移(→)
	④ アブラムシ類	(発生なし)並	→	並	平年の発生量の推移(→)
	⑤ タバココナジラミ	(発生なし)並	→	並	平年の発生量の推移(→)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※増減傾向は、発生量(現況)と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○12月のその他注意すべき病害虫(八重山群島)

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	ツマジロクサヨトウ	11月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲されている。培土時に粒剤の株元散布を行う。なお、粒剤は効果が出るまでに数日かかるため、ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
	黒穂病	11月のほ場調査で発生が確認されている。発見した場合は、胞子の飛散を防ぐため、できるだけ鞭状体出現前に抜き取り処分する。また、発病ほ場やその隣接地からは採苗しないようにする。
マンゴー	炭そ病・軸腐病・すす点病	出蕾期から感染が確認されているので、登録農薬によるスケジュール散布を行う。